ヤスクニ通信　No.280　2023 年 8 月 25 日　例会　毎月第3金曜　7:00～9:00pm（休日の時第 4 金）
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP　https://yasukuninotsudoi.christian.jp/

ヤスクニ・レポ　280

義戦論（正義の聖戦論）から非戦論（絶対平和主義）へ

～ロシアによるウクライナ侵略戦争継続で、世界の平和崩壊の危機克服を目指して！～

吉村　弘司（日本キリスト改革派大宮教会長老）

序　第3次世界大戦の予兆ともみられるウクライナ戦争の危機的状況

昨年（2022.2.24）ロシアによるウクライナ侵攻（侵略）から、1 年半経過しました。第2次世界大戦の終結は、日本が 1945 年 8 月 15 日にポツダム宣言を受入れ、無条件降伏してから、78 年となりました。今、世界は、第3次世界大戦の予兆ともみられる危機的な事態です。米国（NATO 共）の兵器供与の下、ロシアの侵略戦争と戦うウクライナは、かつての朝鮮戦争、ベトナム戦争に類似した構図となっているからです。ロシアによる、連日のウクライナへの無差別攻撃、ブチャ等で市民への虐殺行為、ダムの破壊、ザポリージャ原発の占拠と爆発物設置情報、度重なる核兵器使用の威嚇、隣国ベラルーシへの戦術核配備中です。

一方、ウクライナ側は、米国・NATO からの武器の供与が、エスカレートしています。昨年 4 月 28 日に米国下院は第2次大戦中に連合国向けに兵器供与を加速させた「レンドリュース法」（武器貸与法）の復活を全会一致で可決した。今年 5 月の G7広島サミット中に来日したウクライナのゼレンスキー大統領は、米国は NATO が F15 戦闘機の供与も容認し、米国で訓練することも容認しました。7 月には、米国は、世界で人道的に問題あるクラスター爆弾（1 発で、多数の小型爆弾が出て、多くの不発弾の危険な兵器）も提供済と報じられました。

1　安保理常任理事国ロシアの拒否権行使で、国連の機能不全の事態

国連総会（193 ヶ国）は、「ロシアによるウクライナ侵攻を受けて開催した緊急特別会合で、領土保全や武力行使禁止を定めた国連憲章違反と侵攻を糾弾し、軍隊の即時撤退を求める対ロシア非難決議案を 141 ヶ国の賛成多数で採択（2022.3.2）しました。その後、2022.10.12 の国連総会で、ロシアのウクライナ 4 州「併合」非難決議案には、国連加盟 193 カ国のうちの 143 カ国が賛成し、中国やインドなど 35 カ国が棄権、反対はロシア、ベラルーシ、北朝鮮、シリア、ニカラグアの 4 カ国でした。しかし、強制力を伴う、国連・安保理常任理事国ロシアの拒否権行使で、国連の機能不全と指摘の声が出ています。ロシアの暴挙拡大の中、日本は、戦前、韓国併合（1910-1945）し、武力で中国、アジア諸国を侵略し、日本が敗戦・破滅に至った歴史を想起すべきです。

2　日本の平和憲法が日米安保条約（軍事同盟）で、崩壊の危機へ！

戦後、連合国の統治下にあった日本に、民主主義、平和憲法をもたらした米国は、沖縄の地位協定で、沖縄を米国の植民地にしただけでなく、日米安保条約（軍事同盟）で、米国と一体的に軍事行動できる集団的自衛権の行使可能とした安全保障関連法を成立（2015.9.19）させました。現在は、米国の世界戦略の流れの中、ウクライナ戦争を契機に、戦争放棄を明記した憲法9条を骨抜きとする安保関連三文書も昨年 12 月に閣議決定しました。これにより、中国他を仮想敵国とした九州から南西諸島に至るミサイル網の配備等、台湾有事を前提に自衛隊の軍備増強とで、「軍事費を5年間で計 43 兆円にまで増額」し、敵基地攻撃能力（「反撃能力の保有」は同じ）まで歯止めなき、軍事路線を選択しました。NATO 諸国の軍事費2%の流れに、日本も同調し、与野党を巻き込んだ平和の流れに逆行する動きです。

3　義戦論（正義の聖戦論）から非戦論（絶対平和主義）へ

昨年、ヤスクニ・レポ　272（2022.11.18）「剣を打ち直して鋤とし　槍を打ち直して鎌とする」～ロシアによるウクライナ武力侵略戦争の中、和解と平和解決を祈りつつ～（吉村弘司）〔1.「戦争の論理（道）」から「平和の論理（道）」へ！、2.「靖国の論理」と「ロシアの戦争の論理」の類似性、3.義戦論（聖戦論）から非戦論（絶対平和主義）へ 4.日本の平和憲法を世界平和と和解の道しるべに！〕の中で、内村鑑三の「非戦論」（絶対平和主義）〔3.義戦論（聖戦論）から非戦論（絶対平和主義）へ〕を紹介しました。彼の「絶対的非戦」の聖書の言葉との出会いは・・・次の2つの聖句で知られる。「平和を求むる者は福（さいわい）なり。その人は神の子と称（とな）えらるべければなり」（馬太（マタイ）伝5章 9 節）「イエス彼に曰いけるは、爾（なんじ）の剣を故処（もと）に収めよ、凡（すべ）て剣を取る者は剣にて亡ぶべし」（同 26 章 52 節）〕の御言葉でした。〔「内村鑑

三」鈴木範久著:岩波新書:1984(同 P129-143)〕

「日本国憲法前文」は憲法9条と共に、平和国家を目指す非戦論(絶対平和主義)の土台です。「・・・日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」

4 「滅びに至る広き門、広き道」から、「命に至る狭い門、細き道」選択の時！

十字架への道を歩まれた主イエス様を捕えに来た祭司長・民の長老が遣わした者に、イエス様の弟子が、大祭司の手下の耳を切りつけましたが、主イエスはその耳を癒やされた後、「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」(マタイによる福音書26章52節)と言われました。主イエス様は、「…父は十二軍団以上の天使を今すぐ送ってくださる・・・」のにそれをされずに十字架の道を選択されました。◆狭い門「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」(マタイによる福音書7章13～14節) 宗教改革者 M.ルターは、カトリック教会の「免罪符」の誤りを指摘(1517.10.31「95か条」の質問文)後、1521年「ヴォルムス議会」で、彼の意見の撤回を求められた時、「ここにわたしは立ちます。わたしに何が出来ましょう。神よ、私を助けたまえ」と発言しました。現在、ウクライナ戦争を契機に、世界中(日本共)が軍拡に向かう時、神のみ言葉に従ったM.ルターの信仰に「平和の危機克服の道」を学びたい。

２０２３年７月２１日例会奨励
「迫害と信仰」詩篇 106:1–15
須田毅牧師（日本福音キリスト教会連合・西堀キリスト福音教会）

イスラエルの民が、共同体全体として神に悔い改めています。彼らがこのように自分たちの歴史を振り返って、全国民的に神に対して悔い改める御言葉は多くあります。実際の中味はどうだろうか、本当に全国民がもれなく神に対する罪を自覚したのだろうかと、個人的には疑問を感じます。というのは、イスラエルの民は、繰り返し神に対して背きの罪を犯してきました。そのたびごとに罪を自覚し悔い改めることもあったでしょうが、十分に悔い改めない人々もいた可能性があるだろうと想像します。

信仰者の群れが、まったく一致してこのような悔い改めを言い表すことは、現代においても難しさがありましょう。たとえば、第二次世界大戦下で、国の軍事体制に日本のキリスト教会が協力したことについてさえも、私たちは一致した態度、特に信仰的な態度を持つことは難しいことです。この通信を手に取っておられる方々とは、同じ志を共にして平和の願いのために、信仰者として共に取り組むことができるでしょう。しかし、平和への取り組みを共にできない信仰の仲間も多くいるのが現実です。

戦中派の親を持つ私は、親や親世代である信仰者の先輩方から「戦争は絶対に阻止すべし。もし戦争が起こるなら、真っ先に傷つき痛み、いのちを失うのは弱い人々、普通の市民だ」と言う声を聞いてきました。その世代が徐々に地上の生涯を終えたり、一線で発言することから退きつつあります。個人的には、自らの経験として戦争の愚かさを経験した気迫から、多くを教えられてきたと自覚します。

戦争の一次経験の無い私たちが、平和についての取り組みを、どのように維持できるでしょうか。信仰者としては、やはり神に対する信仰において、平和を実現することを祈り取り組む以外に無いでしょう。十戒の第一戒、第六戒をおもに破った愚かさを覚え、悔い改めて主イエスの御言葉に聴くからこそ、平和を求める志において、信仰者としては共通理解を広げることを第一の筋道としなければなりません。経験ではなく信仰においての一致を、神に従う者たちの間で広げたいのです。